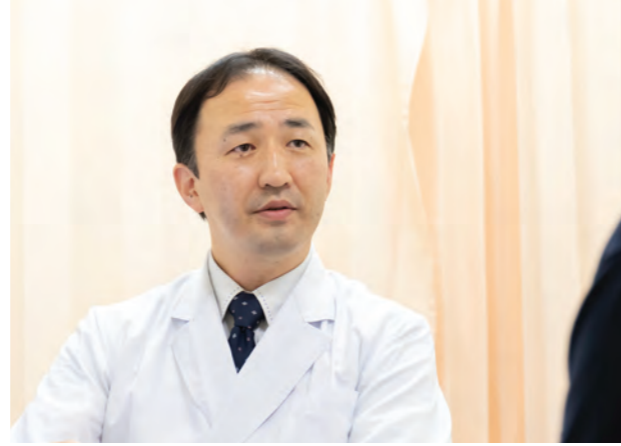


乳房再建術



希望に沿った幅広い治療の選択肢

当院の形成外科・美容外科では、主に皮膚・軟部組織の形成、再建に対し、従来通りの形成術や組織移植などに加え、傷跡の少ない脂肪注入、さらに脂肪由来幹細胞付加脂肪注入を行っております。この術式は通常の脂肪注入よりもはるかに高い着生率を期待できるため、乳房再建に限らずさまざまな部位の軟部組織増大としての使用が可能となっております。癒痕や変形、変性など外観や形態に関わるお悩みは、患者さんにとって大きなコンプレックスの一つになりやすいため、私たち医師はその思いを真摯に受け止め、妥協することなく治療に取り組んでおります。当科の守備範囲は多岐にわたりますが、乳房欠損を含め、外観の変形のことでお困りの患者さんがいらっしゃいましたら、ご希望に応じて幅広い治療の選択肢を持つ当院にご紹介いただければ幸いです。



形成外科・美容外科 講師
梅川 浩平

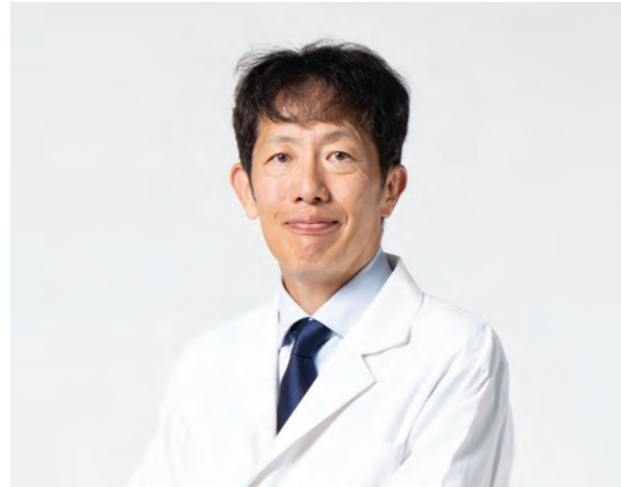
患者さんが「やりたい」と望まれ、私たちのもとに来てくださることがスタートライン。私たちはその時の最善な提案で、患者さんにご満足していただけるゴールを目指します。多忙な毎日ですが、自宅で家族と暮らす6匹の猫の姿に癒されながら、穏やかな気持ちで治療に臨んでおります。



クローン病による複雑痔瘻治療

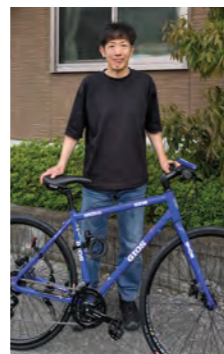
再生医療で難病に挑む専門機関

クローン病による複雑痔瘻は、患者さんの生活の質を大きく損なう病態です。これに対する治療法として、近年注目されているのが再生医療です。再生医療は幹細胞を利用して損傷した組織を修復する新しい治療法で、従来の治療法に比べて副作用が少なく、高い効果を期待できます。当院は、非活動期または軽症の活動期クローン病による複雑痔瘻に対する、ヒト体性幹細胞加工製品の認定施設です。新たな薬剤が開発され、治療成績も上昇傾向にありますが、外科的治療の役割も多く、当院のように再生医療を専門とする外科医が在籍する病院は、全国的にも数が少ないのが現状です。それゆえ、当院の再生医療センターでは、大学病院としての強みを生かして、患者さん一人一人に最適な治療を提供するための個別化医療を重視し、研究と臨床を連携させた治療法を開発しております。さらに、患者さんの経過を丁寧にフォローアップし、治療の効果を継続的に評価しております。今後も患者さんの生活の質向上を目指し、再生医療の可能性を追求していきます。私たちの取り組みが、患者さんの新たな希望となることを心から願っております。



下部消化管外科（一般外科） 教授
水島 恒和

当院ではこれまで、難病に対する治療の一つとして再生医療に取り組んでまいりました。私が専門とする疾患は、医療機関に相談できず症状を抱えたまま、無理して日常生活を送る若い患者さんも多くいらっしゃいます。私はスポーツや読書などで気分転換を図り、仕事のモチベーションを高めながら、今後も患者さんの負担を軽減する治療の研究に励みたいと思います。



 獨協医科大学病院
Dokkyo Medical University Hospital

〒321-0293 栃木県下都賀郡壬生町大字北小林880

再生医療センター

TEL:0282-86-1111 (代表)



獨協医科大学 創立50周年記念事業



50周年記念事業に関するお問い合わせはこちらまで
獨協医科大学創立50周年記念事業推進室
企画広報部内
TEL:0282-87-2107



DOKKYO MEDICAL SCOPE

— 獨協の今を識る — vol.6

難病に挑む、再生医療センター



再生医療センター/ 重症虚血肢治療



さまざまな細胞源を用いた高度再生医療

当院の再生医療センターでは、脂肪組織由来幹細胞(ADRCs)をはじめ、さまざまな細胞源を用いた再生医療を実施しております。特にADRCsを用いた再生医療に関しては、腹圧性尿失禁や重症虚血肢の治療に実績があります。また、日本フットケア足病医学会専門病院として、毎週足カンファレンスを開催し、患者さんの情報を共有しながら治療方針を決定しております。現在、包括的高度慢性下肢虚血(CLTI)と呼ばれる難病疾患においては、多診療科・職種による集学的治療を行い、再生医療を含めた血流改善補助療法により、創傷治癒をもたらすことが期待できます。さらに、ADRCs以外の細胞源を用いた再生医療としては、多血小板血漿(PRP)を用いた顎骨再生や変形関節症治療を実施しております。2019年からはMuse細胞を細胞源とした、再生治療の臨床治験にも参加しております。今後は、より高度な基礎的研究に取り組み、多くの患者さんが再生治療を受けられる医療環境の実現を、地域の先生方と共に目指していきたいです。

心臓・血管内科/循環器内科 教授
再生医療センター センター長

佐久間 理吏

私たちは患者さんを全力でサポートできる医療を提供しております。地域の先生方におかれましては、どんな些細な事でもご相談いただき、患者さんを早期治療に導ける医療体制の連携を築いていけたらと思っております。医師という職業は体力勝負ですので、数年前からジョギングを始めました。患者さんも前向きになれるような元気な姿で、頑張りたいです。



軟骨再生治療



辛い関節の痛みを取り除く再生治療

整形外科で行っている再生医療には、多血小板血漿(PRP)療法および自家培養軟骨移植があります。PRP療法は変形性関節症などの関節疾患に加えて、筋・腱・靭帯損傷にも対応できるため、関節障害のある中高齢者からスポーツ選手まで、幅広い年齢層に治療が可能です。また、自家培養軟骨移植は、膝関節の外傷性軟骨損傷や離断性骨軟骨炎における軟骨欠損に対して、採取した自身の膝軟骨から軟骨細胞を分離・培養して移植する治療法で、広範囲の軟骨欠損に対して適応となります。自家培養軟骨移植を行える医療機関は、栃木県内には少なく、当院は数少ない施設の一つであり、大学機関として患者さんの治療はもちろん臨床研究にも力を注いでおります。当センターの医師たちは、患者さんが抱える辛い痛みをきちんと理解し、それぞれのご希望に沿える治療の提案を心がけております。変形性関節症や関節軟骨損傷による関節痛にお困りの患者さんがいらっしゃいましたら、再生医療に限らず、私たちが責任をもって対応いたしますので、当院までご紹介いただくと幸いです。

整形外科 講師
瓜田 淳

整形外科領域の再生医療において、当院は環境が整っており患者さんのご希望に十分に対応できる施設といえます。3年前に赴任して以来、ワークライフバランスを考え、休日はドライブやジョギングなどを楽しみ、患者さんに対し、健康的な心と身体で向き合えるようにしております。



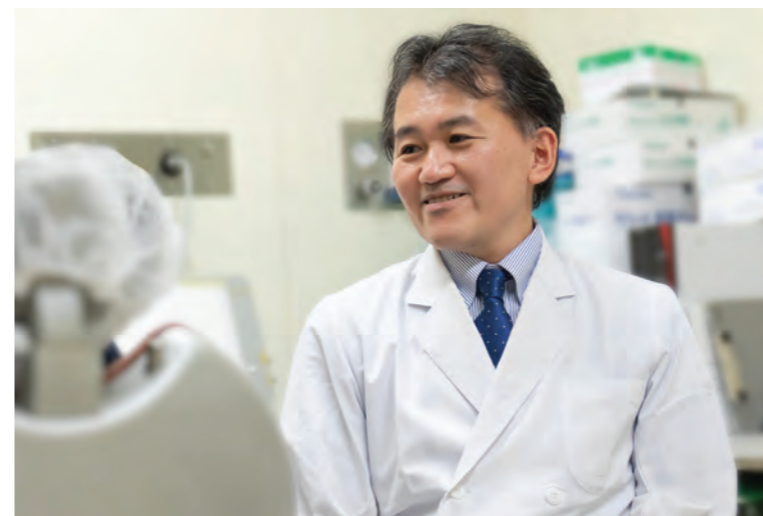
顎骨の再建術・再生治療



生活の質を向上させる再生医療

口腔外科では、顎骨に発生する良性・悪性腫瘍に対する手術後に生じた顎骨欠損や、口唇口蓋裂などの先天性顎骨欠損、顎顔面外傷によって生じた顎骨欠損に対して、チタンメッシュプレートを併用した腸骨海綿骨移植や多血小板血漿(PRP)療法など、さまざまな手法を用いて顎骨の再建・再生に取り組んでおります。顎骨の再建・再生は腫瘍性疾患や先天異常だけでなく、歯科インプラント治療の際にも行われることがあります。インプラント埋入部の骨量が不足している際に骨造成を行うことで歯

科インプラントの埋入が可能となり、患者さんの咀嚼機能や審美性の改善を図ることができます。最新の医療設備を揃え、各診療科の専門医との連携をとりながら、高度な再生医療を実現できる当院では、治療の済んだ患者さんが社会復帰に向けてのリハビリテーションとなる最良の提案を、可能な限り早いタイミングでさせていただいております。再生医療は、たとえ生命に別状を及ぼさない疾患であっても、患者さんの悩みを取り除き、生活の質を向上させるための次のステップとして必要不可欠な治療になると考えております。何かお困りのことがございましたら、ぜひ当院に安心しておまかせください。患者さんのより良い暮らしの基盤をつくるために、私たちはベストを尽くします。



口腔外科 准教授
和久井 崇大

形成外科・美容外科など各科の先生方と連携をとり、患者さんの希望に沿ったさまざまな提案ができるのは、医療体制が整っている大学病院ならではの強みだと思います。休日も仕事をしていることが多く、趣味らしいこともない私ですが、患者さんの思いに寄り添い、今後の生活に大きな可能性をもたらせるよう、医師として精一杯の努力をしたい所存です。地域の先生方、いつでもお気軽にご相談ください。

